

愛知県稲沢市農業委員会（祖父江地区で担い手の農地集約化を実施）

【農業委員会の体制】（令和6年10月1日任期開始 新制度移行後3期目）

農業委員19名、農地利用最適化推進委員24名、事務局職員5名

1 地区の特徴・状況、課題

- 稲沢市は、愛知県の北西部、濃尾平野のほぼ中央に位置し、名古屋から約10分という交通利便性の良さを活かした都市近郊型農業として、稲作を始めとした露地野菜・施設野菜・花き栽培等の多品目に渡って栽培が盛ん。
- 畑の経営規模の拡大を希望する担い手が少なく、田と比較して集積が進んでいない。

2 課題解決に向けた活動（取組と工夫）

- 人・農地プランの話し合いの際に祖父江地区の担い手農家より、機構集積協力を活用した農地の集約を実施したいという意向があった。祖父江地区(水田約220ha)を対象に、担い手9戸の耕作地の集約化と機構集積協力の活用方法について協議を重ねた。またJA等の関係機関とも連携して地権者説明会や地域の担い手との検討会を重ねてきた。



担い手同士で農地を入替える様子

3 活動の成果

- 祖父江地区では、担い手の耕作地が適切に区分され、農地の集約化とともに農地中間管理事業が実施された。
- 機構集積協力は142haの農地を対象とし、その交付金は地権者と耕作者の双方に還元されることが決定した。
- これらの協議は地域計画の基盤となり、将来的にも効果的な農地集約化と地域農業の活性化につながった。